

令和7年度 亀山市中学生議会会議録



令和7年8月26日

令和7年度中学生議会会議録

●議事日程

令和7年8月26日(火) 午前10時 開会及び開議

- 日程第 1 議席の指定
- 日程第 2 会議録署名議員の指名
- 日程第 3 会期の決定
- 日程第 4 市政に関する一般質問

●本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

●出席議員

1 番	永 野 瑛 大 議員	2 番	青 山 奏 音 議員
3 番	藤 本 紫 妃 議員	4 番	安 藤 将 希 議員
5 番	松 田 千 賢 議員	6 番	森 瑛 都 議員
7 番	山 尾 柊 歌 議員	8 番	山 崎 莉 子 議員
9 番	西 川 星 菜 議員	10 番	松 繁 悠 真 議員
11 番	風 口 流 輝 議員	12 番	新 開 ほのか 議員
14 番	西 村 友 那 議員	議 長	田 中 綾 議員

●欠席議員

13 番 櫻 井 泰 基 議員

●会議に出席した説明員職氏名

市 長	櫻 井 義 之	副 市 長	山 本 伸 治
教 育 長	中 原 博	地域医療統括官	谷 川 健 次
消 防 長	豊 田 達 也	理 事	亀 渕 輝 男
政 策 部 長	笠 井 武 洋	総務財政部長	原 田 和 伸
市民文化部長	小 林 恵 太	健康福祉部長	林 秀 臣
子ども未来部長	高 宮 綾 子	産業環境部長	富 田 真左哉
建 設 部 長	高 桐 美智代	上下水道部長	松 永 政 司
危 機 管 理 監	木 田 博 人	地域医療部長	小 森 達 也
消 防 部 長	豊 田 賢 治	教 育 部 長	大 平 守
代表監査委員	上 田 寿 男	市民文化部次長	北 川 明 美

午前10時 開会

○田中 綾議長

皆さんこんにちは。

私は令和7年度亀山市中学生議会の議長を務めます、中部中学校3年、田中 綾です。どうぞよろしくお願いいたします。

開会前に報告をします。

本日は報道関係者の写真等の撮影及び取材について許可したことを報告します。

以上で報告を終わります。

本日の出席議員数は14名です。

なお、出席を予定していた櫻井泰基議員は剣道の全国大会出場により欠席する旨の報告がありましたので、ご了承願います。

ただいまから令和7年度亀山市中学生議会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の会議日程は、あらかじめお手元に配布してあります議事日程のとおり取り進めます。

初めに、日程第1、議席の指定を行います。

議席は議長において指定します。議席はただいまご着席の議席に指定します。

次に、日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は議長におきまして、

1番 永野 瑛 大 議員

4番 安藤 将 希 議員

8番 山崎 莉 子 議員

を指名します。

次に、日程第3、会議の日程を議題とします。

お諮りします。

令和7年度亀山市中学生議会の会期は本日1日間としたいと思えます。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○田中 綾議長

ご異議なしと認めます。

会期は本日1日間と決定しました。

次に議事説明のため、お手元に配付してあります出席者一覧表のとおり、それぞれ出席を終えておりますので、ご了承願います。

次に、日程第4、市政に関する一般質問を行います。

令和7年度亀山市中学生議会においては14名から発言の通告がありました。お手元に配付してあります一般質問通告一覧のとおりですので、ご承知おきください。

通告に従い、順次発言を許します。

14番 西村友那議員。

○西村友那議員

中部中学校の西村友那です。よろしくお願ひします。

最近通学をしていて、私たちの住む地域にポイ捨てが多いと感じています。なので現状は、どのようなのか、校長先生と議員さんとごみ拾いに行ってきました。

この写真を見てください。これは田村町のビックあたりで30分間の間に拾ったごみの量です。30分だけでも、こんなにたくさんのごみを見つけることができました。また、ポイ捨てを注意する看板まで埋もれている状況でした。

亀山市には亀山市まちをきれいにする条例があると中学生議会の学校説明会で学びましたが、この条例は本当にみんなが知っているものなののでしょうか。またこの条例を守らずポイ捨てをしたときの罰則もありますが、今まで実際に適用されたことはあるのですか、お伺ひします。

○田中 綾議長

14番 西村友那議員の質問に対する答弁を求めます。

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

おはようございます。亀山市まちをきれいにする条例は、空き缶やごみなどを捨てないで、清潔で美しいまちづくりを進め、市民が快適に暮らせるようにするために、平成8年に作られた条例です。このような条例を作ったのは県内で亀山市が初めてでした。これまで公共の場所等に看板を設置したり、市の広報などで市民の方に条例を知らせたりしてきました。

しかしながら、条例ができてから時間が経っていますので、少し市民の方の意識も薄れているのかもしれない。今回ご質問いただいたことをきっかけに改めて市民に思い出してもらえよう広めていきたいと思ひます。

また、ご質問の罰金ですが、条例にはごみを不法に捨てたものに対し3万円以下の罰金を科すこととしていますが、罰金を取ることが目的ではなく、ごみを捨てないようにさせることが目的のため、今まで使われた例はありません。なお、現在亀山市をもっときれいで快適な場所にするために、亀山市まちをきれいにする条例の見直しを進めているところです。

○田中 綾議長

西村議員。

○西村友那議員

ありがとうございます。やっぱりごみがポイ捨てされるのはどこもごみ箱がないのが原因なのではないかなと考えています。ごみ箱があれば、ごみを手に持て余している人もすぐ捨てられるでしょうし、私もごみを捨てたい時にごみ箱が見つからず困ってしまうことがありました。特に駅周辺や公園など、人が多く使う公共の場にぜひごみ箱を設置してほしいです。

もう一度お伺ひします。亀山市が、あらゆるところにごみ箱を設置することはできませんか。

○田中 綾議長

富田部長。

○富田真左哉産業環境部長

ごみ箱を公共施設などあらゆるところに設置してはどうかのご意見ですが、かつては駅や公共施設にたくさんのごみ箱が設置されていましたが、ここ20年ほどの間に公共の空間をきれいにしようという意識が定着し、ごみ箱の設置も減ってきました。海外の方が日本に来られますと、

まちのきれいさに非常に驚かれています。

また、サッカーのワールドカップでは、たくさんの日本人サポーターが観戦後のスタジアムのごみ拾いをする姿がニュースになったりしています。一方で、ごみ箱の設置は衛生面や管理費、安全性の面などで課題もあります。

亀山市では、この20年ほどで日本人に根づいてきた公共の空間をきれいに保つ意識をさらに高めていきたいと考えています。ぜひ皆さんも駅や図書館など公共の施設をきれいにしようという意識を持っていただきたいと思います。

○田中 綾議長

西村議員。

○西村友那議員

確かにすぐにごみ箱の設置をするのは難しいかもしれません。ただ、ポイ捨てする人がいるのは事実だと思います。なので私たちもポイ捨て禁止のポスターを学校で作ってみるなど自分たちでできることを考えますので、亀山市の方でも何か考えていただけると嬉しいです。

次の質問に移ります。

夏本番となり、エアコンの設置がされていない特別教室で行う授業は非常に厳しい状態です。暑い中で授業を受けていると、熱中症のおそれや集中力の低下による学力の悪影響が考えられます。

また、先日体育館で行われるはずだった高校入試のための面接の説明会が中止になるなど、今後の将来に関わる物事を予定どおりに進められないという問題がありました。

これについて市長さんはどうお考えですか。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

今ご紹介をいただきました高校入試の面接説明会が、6月19日の5時限目に予定をされていたようですが、当日は天気良く、朝は気温が高くなかったものの昼にかけて急に上がってきたため、体育館での学習をしっかりと空調の効いた各教室で内容を一部変更して、Zoomによって説明会が行われたというふうに聞いております。

その変更部分については、先生による模擬面接の部分だと聞いておりますが、予定しておりました、今回の高校入試の面接説明会の目的や、内容、それから夏休み中や2学期からの心構え、それから注意事項等の説明につきましては、体育館で行う予定であったものと全く同様だと教育委員会を通じて確認をさせていただきました。

先生の模擬面接を直接見ることができなかったことは大変残念だったというふうに思いますが、学校におきましても、今後も私立高校の学校推薦や県立高校の前後期試験に向けて、12月と1月に行います2回の模擬面接練習に加えて、不安がある、もっと練習したいという個人的な希望にもすべて対応すると聞いておりますので、これはどうか安心をして、面接練習や入試、普段の勉強に励んでいただきたいと思います。

しかし、体育館のみならず、天候によって教育活動や施設利用に制限を受けることができるだけ出ないように、教育環境の整備について、亀山市としても計画的に行っていききたいと考えてお

ります。

また、天候等で教育活動の場所が、もし変わる場合におきましても、今回のように教育活動のねらいや伝えたいことが変わらないよう、そして皆さんが不安にならないように、教育委員会を通じて学校へしっかりお話をしていきたいというふうに考えております。

○田中 綾議長

西村議員。

○西村友那議員

このグラフを見てください。このグラフを見ていただければ分かるように、昔と比べ、気温が10度ほど変化しているのが事実です。また、学校の体育館と学校体育館前の設置しているWBGTの数値を見てみると、日中になると体育館内の気温の方が外よりも高くなっていることが分かります。

現在、私たちの学校では普通教室にはエアコンが設置されていますが、体育館、美術室、家庭科室などの特別教室にはエアコンがありません。中部中は1学年6クラスもあり、中部中全校で18クラスがあります。普通教室と同じように1日1回は特別教室で授業を受けています。

それなのにエアコンが設置されないこの差は何なんでしょうか。たった1限だと市長さんは考えるかもしれませんが、私たちからすれば場所が変わるだけですべて大切な授業です。

なので、今後本校に入ってきてくれる生徒や先生方のためにもエアコンを設置してほしいのですが、いかがですか。

○田中 綾議長

中原教育長。

○中原 博教育長

そのグラフにあるように、全国的に平均気温が上昇している中で、生徒の皆さんに安心して安全な教育環境、快適に学んでいくための環境を作っていくためには、空調設備の設置はとても重要なことだと考えています。これまでも亀山市では夏季に実施するサマースクールの教室もエアコンを順次設置をしてきました。

現在、中部中学校の特別教室の空調設備につきましては、音楽室、パソコン室、図書室の他、教育相談室に設置をされていますが、先ほどお話があったように、一部の特別教室には設置されていないのが現状であります。皆さんが過ごす時間の多い普通教室から順に空調設備の設置を行ってまいりましたが、特別教室への空調設備の設置については、校舎の改修などに合わせて、少しでも早く設置ができるよう努力していきたいと考えています。

○田中 綾議長

西村議員。

○西村友那議員

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○田中 綾議長

14番 西村友那議員の質問は終わりました。

次に、7番 山尾柊歌議員。

○山尾柊歌議員

中部中学校の山尾柊歌です。よろしくお願ひします。

私は今の中高生が利用する遊び場についてです。亀山市には中高生が利用する遊び場が少ない、そう感じませんか。亀山市に私はそう感じました。

そこで、私は中部中学校3年生全員に中部中校区にあつたら嬉しい娯楽施設は何かについてアンケートをとりました。市長は何が1位になつたと思ひますか。

○田中 綾議長

7番 山尾柊歌議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井市長。

○櫻井義之市長

まず、今回の質問をされるに当たつて、中学生の皆さんが日頃感じていることについてアンケートの調査を行つていただいたということで、本当に敬意と感謝を申し上げたいと思ひます。

さて、市長何が一番だつたか分かりますかということなんですが、私が中学生時代を思ひ出しますと、ちょうどこの時期に夏は私は自転車で安坂山の石水溪へ、よく出かけたのを記憶してまゐす。自宅から石水溪までは結構距離がありましたけど、友達と出かける楽しさもあつて、結構石水溪へ通つた思ひ出がございます。あるいは当時、鈴鹿市内に大型のショッピングセンターができた時代でしたから、これも悪友とともに自転車で鈴鹿市へ通つた記憶がございます。

そこでご質問ですが、今の中高生が普段どこで遊んでいるのかということは詳しくは分かりませんが、多分カラオケであるとか、あるいは映画館、あるいはプリクラとかガチャガチャがあるショッピングモールではないかなというふうに思ひますが、その中でも、やっぱり安くて長い時間いれるということで、カラオケが一番かなというふうに思ひますが、いかがでしょうか。

○田中 綾議長

山尾議員。

○山尾柊歌議員

ありがとうございました。

こちらをご覧ください。1位がカラオケ、2位にショッピングセンター、3位ゲームセンターでした。1位のカラオケに関しては、前までチェーン店である快活クラブがエコーにありましたが、現在はありません。

次に、こちらをご覧ください。休日どこに遊びに行くかアンケートでは、1位イオンモール鈴鹿、2位カラオケ、3位映画、4位ゲームセンター、5位部活動でした。こちらのアンケートでも上位にランクインしたカラオケはもちろん私たちも使えますし、全世代が楽しめるのではないかとと思ひます。

この先、こういう施設が中部中校区にできる予定はありますか。

○田中 綾議長

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

議員からご紹介がありましたイオンモールやカラオケ映画館などのアミューズメント施設等は、残念ながら今のところ中部中校区に建設される予定はありません。

しかし、将来辺法寺町の亀山ジャンクションから鈴鹿市まで繋がる鈴鹿亀山道路が完成すれば、

まちの様子や人の流れも変化し、新しい商業施設ができるかもしれません。亀山市で令和7年3月に行った市民アンケートでも、余暇を過ごす場所、外食や宴会等を行う場所の充実、こういった項目について満足度が低いという結果が出ています。

これまで亀山市では交通の便利さを活かして、シャープ株式会社などの製造業を中心に様々な会社に来ていただき、地域を活性化させて、働く場所を増やしてきました。

しかし、商業やサービス業の施設も、中高生や若い世代の人たちに強く求められている施設であるということは理解しています。

今後は魅力あるまちづくりに向けて、議員のご提案にありましたように、商業施設が市内に建設されるよう、力を入れていきたいと思えます。

○田中 綾議長

山尾議員。

○山尾柊歌議員

ありがとうございました。次の質問に移ります。

市外の施設に遊びに行くとなると答えた人が大半だったことから、その時に利用する交通網は何かというアンケートも併せて取りました。

こちらをご覧ください。アンケート結果では1位車、2位自転車、3位電車、4位徒歩、5位バスでした。

私自身が利用する交通網はバスなので、バスを利用する人が多いと思っていました。しかし、バスを利用する人はごくわずかでした。

その原因を考えた結果、本数が少ないこと、お金がかかることというデメリットが浮かんできました。正直私は未成年は無料でもいいと思えます。まだ未成年は車も乗れないし、自分でお金を稼ぐことができないからです。

実際のバスの運賃は何百円ですが、子どもにとっての何百円はとても大きい負担になります。だから私はバスの利便性の向上をするべきだと思います。

バスの運賃を無料にすることはできませんか。

○田中 綾議長

笠井政策部長。

○笠井武洋政策部長

おはようございます。市外へ運行するバス路線は鈴鹿方面2路線、津方面1路線ありますが、それらはバス会社が運賃を決める路線であったり、あるいは鈴鹿市や津市と費用を分け合って運行を行っている路線ですので、残念ながら亀山市だけでその運賃を変更できるものではありません。

一方で、亀山市内のみを運行するバス路線は、1路線を除いてすべて市が運行するコミュニティバスですので、市が必要な手続きを行って料金を決めています。これらは乗車区間にかかわらず、中学生を除く15歳以上が1回200円。小中学生、65歳以上の高齢者等がその半額の100円。小学生未満や、障がい者等は無料と、できる限り安くて分かりやすい料金にするとともに、交通系ICカードやお得な回数券・定期券もご利用いただけるように工夫をしています。

一方で、年間を通してバスを運行するためには、運転手や燃料、運行車両などかなりの費用が

必要となります。その費用の総額は年々増加傾向にありまして、昨年度で約1億3,400万円にも上っています。

こうした現状を考えた中で、今後もバスを運行させていくためには、学生さんや障がいのある方など、日常生活にバスが必要な方々が使いやすいように料金を安くしたりする工夫は必要です。

しかし、バスの運行には費用がかかりますので、利用者の方からも一定の料金をいただかなくてはなりません。このように市と市民が力を合わせてバス路線を守っていこうとする取組がとても重要であると考えています。

○田中 綾議長

山尾議員。

○山尾柁歌議員

ありがとうございました。これから先、高校に行くとき、バスを利用したいと考えています。それは私だけではないでしょう。みんな高校生になったらバスや電車などの交通網を利用します。公共交通機関を利用すると、遊びに行くときに親の送迎の負担を軽減するためにもなります。

だから、私はバスの本数を増やすべきだと考えます。バスの本数を増やすことはできないのでしょうか。

○田中 綾議長

笠井政策部長。

○笠井武洋政策部長

市内のすべてのバス路線はJR亀山駅を中心に、駅での鉄道への乗り継ぎも考えたバスの運行や時刻表の設定を行っています。例えば、中部中学校区から東部ルート第1便や第2便、あるいは野登ルート第1便をご利用いただくことで、市内の高校の通学の他にもJR駅から電車を利用して津方面、四日市方面の高校へも通学していただくことができます。

しかし、市内のバス路線は各路線をそれぞれ1台のバスで運行していますので、運行本数には限りがありますので、通学時間帯の列車の発車時刻にすべて合わせることはできませんので、鉄道利用が多い時刻を選んで、乗り継ぎができるよう時刻表を調整しています。

また、帰宅時間帯においても、通常の授業終了時間帯に合わせた鉄道との乗り継ぎがしやすいようにしていますので、クラブ活動後の帰宅等の時間帯には乗り継ぎが悪いかもしれません。

一方で、バスの本数を増やせば運行費用が増加するため、現在の少ない利用者のままでは、バスの本数を増やすのは難しい状況です。

こうしたことから、まずはお1人でも多くの方にバスをご利用いただき、利用者数を伸ばす取組を進めていくことが重要だと考えています。通学にバスを利用していただくと、利用者数が増えますので、駅へのご家族による送り迎えなどの実態も把握しながら、引き続き改善方法を検討していきたいと考えています。

○田中 綾議長

山尾議員。

○山尾柁歌議員

ありがとうございました。中高生が過ごしやすい遊び場の確保や、バスの利便性に向けて努力してほしいと、市長さんをお願いして私の質問を終わります。

○田中 綾議長

7番 山尾柊歌議員の質問は終わりました。

次に8番 山崎莉子議員。

○山崎莉子議員

中部中学校の山崎莉子です。よろしくお願ひします。

私は小学校のとき、猿の集団が出て、学校に待機して帰るのが遅くなったときがあります。他にも裏の畑に猿が出たとき、近所の方が害獣用花火T3を打ってくれたのですが、それも人なれしてしまい、数分ほど経ってまた戻ってきてしまいます。さらにGPSをつけてサルどこネットで確認できるのは知っています。GPSをつけることで、どのような効果があり、どのような対策に繋がるのでしょうか。また、それ以外にどのような対策があるのでしょうか、教えてください。

○田中 綾議長

8番 山崎莉子議員の質問に対する答弁を求めます。

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

市内には9つの猿の群れがあり、このうち中部中学校周辺に出没するのは、亀山C群という約20頭の群れです。亀山C群は餌を求めて移動し、1度餌がある安全な場所を覚えてしまうと何度もやってきます。野生動物にとって居心地が悪く、餌が少ない場所にするため獣害対策5箇条を守ることが大切とされています。

1つ目は「餌場をなくす」で、稲刈り後に生えてくる稲やごみなどを片付けて餌になるものをなくすことです。

2つ目は「隠れ場所をなくす」で、草木を刈払い、野生動物が安心する場所をなくすことです。

3つ目は「できる限り囲う」で、ネットや柵で囲い、野生動物に農作物が食べられないようにすることです。

4つ目は「追い払う」で、人は怖いと教えるため、野生動物を見たら追い払うことです。

5つ目は「適切に捕獲する」で、野生動物が出てきては困る場所の近くで捕獲することです。

市は猿の動きを知るために、亀山C郡の猿1頭にGPSをつけて行動を調査し、餌場や隠れ場所をなくす対策や、捕獲するおりの設置場所の参考にしています。

猿対策として中学生の皆さんにできることは、ゴミをきちんと片付けて餌場をなくすことや、校内で栽培している野菜などがあれば、ネットで囲うことなどです。また、先生方や保護者の方には猿がこないようにグラウンド脇等の草木を刈ったり、花火を使って猿を追い払ったりしていただければと考えています。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

ありがとうございます。

西小学校区で下校中の生徒が猿に襲われる事例があったと聞きました。私たちも他人ごとではありません。安心して登下校ができるよう、引き続き対策をお願いします。

次の質問に移ります。

私は習い事に歩いて通っていたんですが、19時までであったため、帰り道は暗く、場所によっては見通しも悪いため、とても怖い思いをしたことがあります。

市長が私と同じ立場だったらどう思われますか。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

「暗い道を歩いて不安に感じた」という率直な思いを聞かせていただいてありがとうございます。もし私が同じ立場であれば、やはり山崎議員と同じように、きっと怖い思いをしたろうというふうに思います。

市ではこの夜の交通事故とか犯罪を防ぐために、そして子どもたちが安心して通れるように、暗い道に街灯とか防犯灯をつけて、まちを明るく安全にする取組を進めてきました。

ご案内のように亀山市内はとても広いので、山崎議員からのご意見にもありましたように、まだ街灯などがついていない場所もたくさんあります。

こうした安全の問題に対応するために、今日もそうですが、皆さんからの声とか意見はとても大切だと考えています。

これまでも学校の先生やPTAの方々と一緒に通学路を点検し、必要な場所には、街灯を設置してきました。これからもPTAの皆さんなどからの要望、そして地域のまた皆様のご協力をいただく中で、みんなが安心して通れる道づくり、防犯対策、まちづくりを進めていきたいと考えております。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

ありがとうございます。

では質問します。街路灯を設置した場合、どのような基準で設置するのか教えてください。

○田中 綾議長

高桐建設部長。

○高桐美智代建設部長

街灯や防犯灯の設置は、市民の皆さんの安全で安心な生活環境を守るために重要な取組です。

市では次のような基準をもとに、街灯や防犯灯の設置や管理を行っています。街灯は車や人の交通量が多い交差点や横断歩道、橋の上などに設置され、夜間でも安全に通行できるよう、広い範囲を明るく照らす役割を果たしており、特に交通事故の発生リスクが高い場所を優先に設置しています。

また、防犯灯は、住宅街や通学路など地域の人がよく通る道に設置されていて、暗い場所を明るくすることで、犯罪の防止や不安な気持ちを解消する役割を果たしています。防犯灯の設置や管理は、皆さんが住んでいる地域の自治会が中心となって行っており、市は補助金を出してその活動を応援しています。現在、市内には4,773基の防犯灯が設置されています。

街灯や防犯灯は、市民の皆さんが夜間でも安全で安心に過ごせる環境づくりに欠かせないもの

であり、これからも地域の声をお聞きしながら、必要な場所に設置し、管理をしていきます。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

暗い場所での事故が多発していると聞きました。例えば市内でも中学生が通行中に街路灯がなく、路肩から田んぼに落ちたという話を聞きました。市長はこういった状況どう思われますか。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

街灯や防犯灯がないことで、視界が悪くなって、田んぼに落ちてしまった生徒の方はとても怖く、大変な思いをされたことだと思います。大きなけががなかったかなと心配をするところであります。

こうした事故の事例は、街灯や防犯灯の必要性を改めて考えるきっかけとなります。

もし、この道は暗くて危ないなと感じる場所があれば、保護者の方や先生など、身近な大人の方に相談を、まずはしてください。そういった声が、まちをより安全にしていくための大切な情報になると思います。

また、もしその道を通らなければならない、暗い道を、そういうときに自転車で通るというときには、ヘルメットをかぶったり、より明るいライトをつけたりすることも、自分の身を自ら守るということで、とても大切なことだと思います。

ぜひ、日頃からそこも意識して行動してほしいと思います。

いずれにしても、貴重ないろんな意見をしっかりいただく中で、できるだけ安心安全に通れる道づくりをしていくということが大切だと思っております。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

こちらをご覧ください。

私なりに街路灯について調べたところ、このソーラー式街路灯というものを見つけました。

この街路灯は人感センサーがついているため、電気代も安く、本体価格も2万円ほどでできるんですが、街路灯の導入についての考えをお聞かせください。

例えば、この街路灯を100本ほど買ったとしても、亀山市の一般会計の236億2,000万円の0.008%ほどの金額でできると思うのですが、どうでしょうか。

○田中 綾議長

高桐部長。

○高桐美智代建設部長

山崎議員からご提案いただいた、人感センサーのついたソーラー式の街灯は、太陽光で発電するため二酸化炭素ガスなどの温室効果ガスを出さず、環境に優しく電気代もかからないなど、たくさんよいところがあります。

市では、街灯や防犯灯を設置するときに、点検や修理のしやすさ、長く使えるかどうか、そし

て明るさの基準など、様々な面から考えて設置を進めています。

特にソーラー式の街灯は日陰になっている場所や日照時間が短いところではうまく電気をためることができず、街灯として十分に機能しないことがあります。

そのため、導入については、設置する場所や周りの環境をよく調べて十分に検討していく必要があります。

今回のご提案はとても参考になるもので、防犯灯を設置していただいている各自治会にも、こうした新しい製品を紹介しながら、便利で環境にやさしい技術にも目を向けて、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えています。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

難しいとは思いますが、例えば未来の子どもを守るためにと企業さんに協力していただき、企業広告をつけた街路灯を設置してもらうのはどうでしょうか。私たち学生も企業ももちろん行政の方々もみんな幸せだと私は考えます。

この提案についてどう思われますか。

○田中 綾議長

高桐部長。

○高桐美智代建設部長

企業が広告をつけた街灯を設置してくれるというアイデアは地域の安全を守ること、企業が社会に貢献することの両方を叶える可能性があり、とても良い提案だと思います。

ただ、公共の場所に広告を出すにはいくつか気をつけることがあります。

例えば、まちの景観を壊さないようにすること、広告の内容がふさわしいかどうか、街灯を設置する場所が安全かどうかなどです。

市では、こうしたことをしっかり考えながら、地域の人達や企業の方と話し合っ、実現できるかどうかを探っていくことが大切だと考えています。

今回の提案は、これからのまちづくりに新しい考え方を示してくれるものであり、今後の参考にしていきたいと思います。

○田中 綾議長

山崎議員。

○山崎莉子議員

私たちの安全な暮らしのためにぜひ検討していただきたいです。

以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○田中 綾議長

8番 山崎莉子議員の質問は終わりました。

次に10番 松繁悠真議員。

○松繁悠真議員

こんにちは。

関中学校の松繁悠真です。

それでは通告に従い一般質問をさせていただきます。

私は普段、関駅のトイレを使わせていただくことがあるのですが、思うことがあります。それはトイレが和式であり、使いづらいことです。

また、友達に聞いたところ、関駅だけではなく、亀山駅の外のトイレや、下庄駅のトイレが和式で汚いそうです。

最近では、しゃがむ動作をすることが少なくなっているため、和式のトイレは足腰の悪い人や高齢の方にとっても使いづらいです。さらに、現在は90%以上の住宅で洋式のトイレが使われています。

市長はこの状況をどう思いますか。

○田中 綾議長

10番 松繁悠真議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井市長。

○櫻井義之市長

今ご紹介をいただきました亀山市内にあります5つの駅のうち、亀山駅・井田川駅・関駅・加太駅の4駅には市が管理をする駅前トイレがございます。それ以外の下庄駅にはJR東海さんが管理する駅構内のトイレがあります。

また、それぞれのトイレは井田川駅と加太駅は洋式だけ、亀山駅、関駅と下庄駅の構内のトイレは和式のみとなっております。

議員がご指摘をいただいたとおり、現在日本の住宅のトイレは生活様式の洋式化が進んでいますことから、洋式トイレが大半を占めておりまして、これに合わせて本市でも学校のトイレの洋式化を進めてきたり、市の公共施設についても順次この洋式トイレの改修を進めてきています。

このようなことから、現在あるトイレを和式から洋式へ改修するためには、設置スペースや費用の問題などもございますけれども、トイレをご利用いただく方にできるだけ使いやすいものとするため、今後のトイレ改修につきましては、洋式化についてできるだけ早く、順次進めていきたいと考えているところでございます。

○田中 綾議長

松繁議員。

○松繁悠真議員

ありがとうございます。

これは自分からの提案になるのですが、もしお金が必要なら企業に呼びかけたり、クラウドファンディングに募ってみるのはどうでしょうか。是非とも市民の暮らしやすい亀山市にするために検討してみてください。

これで質問を終わります。

○田中 綾議長

10番 松繁悠真議員の質問は終わりました。

次に1番 永野瑛大議員。

○永野瑛大議員

最近では、外はWBGTが31を超えて、外で運動するのは難しいです。なので、中学校では

体育館で運動することが多いです。

ですが、体育館は熱がこもりやすく、熱中症のリスクが高い環境です。それに、体育館で運動する体育の先生は、1日で3限ぐらい連続で授業をすることもあります。

WBGTが31を超えたら体育館で運動をするので、外での運動は制限されます。体育館での運動は外より範囲が狭く、運動の幅が狭まります。それは生徒の体力低下に繋がります。

快適な環境で体育の授業を受けることは、生徒の集中力向上にも繋がります。暑い中、運動していると集中力が低下して、けがをするのにも繋がります。

なので、体育館にクーラーをつけてほしいです。亀山市内の小学校、中学校にすべてにつけるのは金銭的に難しいと思います。なので、まずは3中学校につけてほしいです。

いつつけてくれますか。

○田中 綾議長

1番 永野瑛大議員の質問に対する答弁を求めます。

大平教育部長。

○大平守教育部長

亀山市内の中学校体育館への空調設備につきましては、現在のところご存じのとおり設置されていないという状況でございます。

そうした中ではありますけれども、暑さが厳しい時間帯などは体育館での活動も含め、運動自体を控えること、こういったことも大切であろうというふうに考えております。

このような状況の中、学校における暑さ対策について、とても大切なことというふうに考えておきまして、生徒の皆さんの快適な学習環境の整備という点から、まずは各学校の特別教室への空調設備の設置を第1に考えているところでございます。

一方、永野議員ご指摘の中学校体育館への空調設備の設置につきましても、地域の避難所に指定されている体育館があるということも当然承知しておりますので、今後市役所の関係部署で十分な検討をしていきたいというふうに考えています。

○田中 綾議長

永野議員。

○永野瑛大議員

体育館は授業だけではなく、部活動や地域の方々の災害避難所になります。夏に災害が起きた場合、地域みんなが体育館などに避難をする場合があるので、そんなときにクーラーがないと、熱中症になって倒れる人も多いと思います。

なので、クーラー設置までにどのような対策をさせていただきますか。

○田中 綾議長

大平部長。

○大平守教育部長

体育館への空調設備の設置については、教育委員会においても十分検討をしておりますけれども、体育館での暑さへの対応といたしましては、今年度、例えば冷風機、スポットクーラーでございますけれども、こういったものを追加で購入設置をしていきますので、引き続きこうした冷風機、スポットクーラー、扇風機の活用をお願いしているところです。

また、先生方の指導のもと、熱中症警戒アラートへの対応でありますとか、こまめな水分補給、十分な休憩時間の確保、それから室内の換気などを行っていただき、暑さへの負担が少しでも減るような行動を心がけていただきたいと各学校を通じてお願いをしているところです。

○田中 綾議長

永野議員。

○永野瑛大議員

早急にクーラー設置していただけるようお願いし、これで質問を終わらせていただきます。

○田中 綾議長

1番 永野瑛大議員の質問は終わりました。

次に、3番 藤本紫妃議員。

○藤本紫妃議員

お疲れ様です。

関中学校の藤本紫妃です。

通告に従い一般質問を行います。

私の質問は、関駅の電車の本数を増やすことについてです。

現在関駅では1時間に1本しか電車が運行されていません。利用者は学生やシニア世代が大半を占めており、1本電車を逃すと代替りの交通手段がないため、次の電車まで1時間待たなければならない状況です。しかし、関駅は待合スペースが狭く、特に夏場は非常に暑くて待つには厳しい環境が現状です。さらに、シニア世代の中には車の運転に不安を感じている方や運転そのものが難しい方が多くいらっしゃいます。

そのような中で、電車はとても重要な移動手段です。電車の本数を増やすことで私たち学生の利用がより活発になるだけでなく、シニア世代の方々や観光・旅行で訪れる人々の利用にもつながると考えます。

こうした現状を踏まえて、関駅の電車の本数を増やすことについて櫻井市長はどのようにお考えでしょうか。ご意見をお聞かせいただきたいです。

○田中 綾議長

3番 藤本紫妃議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井義之市長。

○櫻井義之市長

お疲れ様です。亀山市を東西に走りますJR関西本線のうち、亀山ー加茂間、亀山駅から京都の加茂ですが、これの1日1キロあたりの平均輸送量は、今から38年前の国鉄からJRになった頃の昭和62年は4,294人でございましたが、令和6年度は978人まで落ち込んで現在JR西日本で32本ある赤字区間の1つに挙げられています。残念ながら。

またコロナの影響で減少した利用者数も、その後実は徐々に回復をしておりますが、まだまだ厳しい状況が続いています。そして、JR関駅の1日当たりの乗車人数も、令和6年度は実は209人とこれは年々減少傾向にあります。

そこで、これまでから亀山市としても三重県やJR関西本線が通る伊賀市さんとか京都府の沿線の自治体の皆さんと協力をしながら、また、最近ではJR西日本さんとも協力をしながら、み

んなでもっと鉄道に乗って鉄道を残す、その取組を、その運動を進めているところであります。その取組の1つとして今年の2月にはJ R名古屋駅からJ Rの関駅を經由して伊賀上野駅までの区間の直通で走る列車を運行をいただきました。今年の秋頃には関西方面からの、いわゆる観光列車の運行も計画をいただいているところであります。

全国的には利用者が少ない地方鉄道がなくなってしまうこともある中で、まずはこのJ R関西本線の運行本数が少なくならないようにもっと利用者を増やす取組をしっかりと行っていきたいと考えています。利用者が増えれば列車の本数が増えたり、サービスが良くなったりすることにつながっていくと考えるものであります。

また、J R関駅には待合スペースが十分ないということも伺っているんですが、関駅内にあります関宿ふるさと会館が、これは実は市の建物ですので、その喫茶コーナー等のスペースが1階正面入口の西側にありますので、今冷房も効いていますのでぜひ列車の待合場所としてご利用いただければと思います。

○田中 綾議長

藤本議員。

○藤本紫妃議員

代わりとなる交通手段についてどのようにお考えですか。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

鉄道に代わる公共交通としてはバスやタクシーなどが挙げられますが、鉄道のように時間に遅れず比較的安くて快適に移動できる交通手段は今のところ残念ながらないというふうに思います。

もし、J R関西本線の区間を他の交通手段で移動できるようになれば、今よりさらにこの鉄道利用者が減少して、鉄道の本数が逆に少なくなってしまうかもしれません。

まずは、現在のJ R関西本線、亀山ー加茂間の運行が将来も続いていけるように、鉄道の利用者数を増やすことが最も大切であるというふうに考えています。そのためには行政だけでなく、鉄道会社や市民の皆さんなど多くの関係者の方が知恵を出し合いながら協力して取り組むことが大切だと考えております。

鉄道に乗って残す、そういうみんなの思いと行動で是非とも多くの人にこれからもこの関西本線が、亀山ー加茂間がちゃんと継承されて運行できるように、皆で力を合わせて盛り上げていきたいと思っておりますし、そのことが鉄道をより、逆に便利にしていくことにつながるんだろうというふうに考えているところであります。

○田中 綾議長

藤本議員。

○藤本紫妃議員

関駅がより便利になることをお願いし、私の質問を終わります。

○田中 綾議長

3番 藤本紫妃議員の質問は終わりました。

次に9番 西川星菜議員。

○西川星菜議員

こんにちは。

関中学校の西川星菜です。

通告に従い一般質問を行います。

今回のテーマは夜の関中学校を最大限に生かすイベントについてです。櫻井市長は夜の関中学校を見たことがありますか。

○田中 綾議長

9番 西川星菜議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井市長。

○櫻井義之市長

現在の関中学校の校舎ですが、平成23年の3月に地元の木をたくさん利用して建て替えを行いました。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている関宿の町並みが表現された中庭もありまして、やっぱり周囲のまちづくりと一体となって溶け込んでいる学校施設として様々な分野で評価をいただいて、知事賞とか国の各大臣賞をはじめ多くの賞を受けてきました。

その中庭からは校舎の背景に鈴鹿国定公園も見えて、豊かな自然と木のぬくもりを感じる校舎との一体感は、昔の人々が築いてきた知恵や物語を身近に感じることができるため、私自身も大好きな場所の1つであります。

夜の関中学校を市長は見たことあるかということでございましたが、この夜の関中学校は関宿祇園夏祭りなど様々な機会を通じて私も寄せていただいたり、見たことがあります。

これ、昼間に見る景色とはまた少し異なって、中庭などは江戸時代の夜の関宿にいるような、そんな錯覚にも陥る感じがいたしましたし、ゆったりとした空間の中で歴史・文化を感じて、その趣の中の空間は大変美しい風景だというふうに感じております。

○田中 綾議長

西川議員。

○西川星菜議員

資料をお願いします。

私も1度夜の関中学校を見たことがありますが、とてもきれいでした。

現在、関中学校は夜間になるとほとんど使われておらず、教室や体育館、校庭などが空いたままの状態になっています。こうした施設が十分に活用されていないのは非常にもったいないと感じています。

そこで、地域のにぎわいづくりや多世代の交流のきっかけとして、夜の学校を活用した文化フェスの開催を提案したいと考えています。この文化フェスでは、地元の音楽グループやアート団体、飲食店などにも参加していただき、地域の魅力を再発見、発信する場にしたいと考えています。

安全面や近所への配慮などを十分に検討した上で、地域住民の協力を得ながら企画を進めていく予定です。

そこでお伺いします。地域住民の活動として夜間に学校を文化イベントの場として活用することに必要な手続きや条件を教えてくださいませんか。

○田中 綾議長

大平教育部長。

○大平守教育部長

ご提案の関中学校を活用した文化的なイベントであるとか、そういった開催に関しての手続きでございますけれども、関中学校に限らず生徒の皆さんが夜の中学校を活用して、文化フェスティバルのようなイベントを開催したいという場合には、まずは中学校の施設を管理をしておられる校長先生と相談することが大切であろうかと思えます。

学校には生徒さんの持ち物、それから作品、あとは備品などが置いてあったり、使用したい時期でありますとか教室、場所によっては使用ができないというような場合もあろうかと思えます。日時や使用目的、夜間に行う意義、参加する人数などを校長先生に伝えて、場合によっては教育委員会との相談となる場合もございますけれども、最終的には校長先生の判断で使用できる、できない、こういったことを決定いただくことになろうかと思えます。

○田中 綾議長

西川議員。

○西川星菜議員

このイベントを通じて地域のつながりや文化の交流を育めたらいいと思っています。安全面や運営体制など慎重な検討が必要ですが、夜の学校に新しい価値を与え地域の人々が誇れる場所にするために、このような取組を前向きに考えていただけますか。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

西川議員からの文化フェスティバルのご提案でございますが、これまで関中学校におきましてこのきれいなたたずまいの中庭で地域の人々にお越しをいただいてコンサートなんかを開催してきました。最近では昼間に開催をしていますが、お話がありましたように過去にもこの夕方に開催をしていた時もあったというふうに伺っております。

この夜の学校に新しい価値を与えて地域の人々が誇れる場所にするために、と考えていただいて、夜の中学校を活用した文化フェスティバルを開催したいという場合は、先ほど教育部長から説明がありましたけれど、まずは校長先生に相談をしてみてください。

また、その上で生徒の皆さんがアイデアを出し合って、夜の関中学校の魅力を最大限に活かすイベントを計画する中で、学校の先生とか校長先生に相談をされると思えますけれど、この文化に関する事でこんなことを考えているけれど、どうしたらいいのかなと迷った時には、ちょうど関支所の中に文化課というのがありますので、この文化課にご相談いただければアドバイスや協力ができることもあるんじゃないかなと思えますので、ぜひ気軽にご相談をいただきたいと思えます。

大変前向きなご提案ありがとうございました。

○田中 綾議長

西川議員。

○西川星菜議員

ぜひ私たちの誇りである関中学校の校舎を多くの方に知ってもらえるような取組をお願いして、以上で質問を終わります。

○田中 綾議長

9番 西川星菜議員の質問は終わりました。

次に2番 青山奏音議員。

○青山奏音議員

こんにちは。

関中学校の青山奏音です。

通告に従い一般質問をします。

私の質問のテーマは、新しい出会いや交流についてです。関中学校は関小学校と加太小学校の2校が集まっています。

ですが、中学校に上がっても新しく加わる加太小学校の人数が数人しかいないので、小学校の頃とメンバーが全然変わらず新しい人との出会いや交流の場が少ないです。中学校に上がっても新しい友達を作る機会などがあまりありません。市内の中学校の生徒数を調べてみると亀山中学校は608人、中部中学校は633人います。ちなみに関中学校は127人しかいません。関中学校の全校生徒は亀山中学校の1学年よりも少ないです。

櫻井市長はこの生徒数のばらつきに関してどうお考えでしょうか。

○田中 綾議長

2番 青山奏音議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井市長。

○櫻井義之市長

この3中学校の生徒数のばらつきに関してどう考えるかということですが、今少しご紹介いただいたように亀山中学校は608人、中部中学校633人、関中学校が127人となっております。これは市内各地域でお住まいの方の人数等の状況が異なることや、地域によって進学する中学校が決まっていると、いわゆる小学校から中学校へ進学する、中学校は決まっているということで、その地域の小学校の数、児童数によって、3つの中学校の生徒数にばらつきが出てしまうのは、これは仕方がないことだというふうに思います。

しかし、この大きい学校でも小さい学校でも、それぞれの学校の特色あるいは風土を、歴史的な流れも踏まえて、やはり教育活動とか様々な行事とか、これが本当に豊かに活発に展開いただいくことが大事だと思っておりますし、それぞれの3中学校の人数は大小関係なく、やっぱり先生との関係、友人同士の関係、地域の皆さんとの関係、こういう関係がより深く繋がっていくことがとても大切なことだというふうに思います。

従って、この3中学校の人数のばらつきについては致し方ないところもあろうかというふうに思います。

○田中 綾議長

青山議員。

○青山奏音議員

生徒数のバランスが悪いので、3中学校の生徒数を同じぐらいの生徒数にできますか。

○田中 綾議長

大平教育部長。

○大平守教育部長

3中学校の生徒数を同じくらいにできないかというご質問でございますが、現在関中学校は関小学校と加太小学校、それから亀山中学校は亀山西小学校、亀山東小学校、昼生小学校、白川小学校、神辺小学校と亀山南小学校、それから中部中学校は川崎小学校と野登小学校、それから井田川小学校、これらを卒業した生徒の皆さんたちが通うように区域が決められています。

市内3中学校の生徒数を同じくらいにすることにつきましては、各地域の人口の違いがあり、中学校に通う小学校の範囲、こういったことが決まっておりますので、これを変えるにはそれぞれの学校の生徒の皆さんや保護者さん、それから地域の方々の理解も必要なことだと考えております。

他の市や町によりましては、子どもたちの数が減ってきていることなどを理由に、学校を閉校したりでありますとか、2校を1校にするとか、そういったことも検討されているというふうに聞いておりますけれども、亀山市におきましてはそれぞれの小・中学校の区域ごとに学校に協力いただく地域の方々の仕組みがしっかりしておりまして、また地域の絆や学校への思いも強い中、これからも関中学校、亀山中学校、中部中学校の3中学校を中心にこうした地域との繋がりを大切にして、地域と共に歩む学校づくりを進めていきたいというふうに考えておりますのでご理解いただきたいと思います。

○田中 綾議長

青山議員。

○青山奏音議員

亀山中学校のようにいろんな小学校から集まってきた中学校よりも、関中学校は新しい出会いや交流の機会が少なく、高校に上がったときに友達ができるか不安です。なので人権サークルであるヒューマンライツでは夏休みに3中学校交流会が行われています。

でもヒューマンライツに入っている特定の人しか参加できません。誰でも参加できるような交流の場を広げることはできないでしょうか。

○田中 綾議長

中原教育長。

○中原 博教育長

新しい環境で友達ができるかっていう不安ですね。これは高校進学を控える皆さんが誰しも抱く気持ちだと思いますし、ご家族や私自身も進路の節目節目ごとに、そういった友達ってできるかなっていう心配はありました。

しかし、人数が少ない学校ではこれまで皆さんが先生やお友達と距離が近く、意見交流もより密に行い、友達のいろんな面を理解しやすい環境にあったと思います。

このような経験の中で友達との人間関係を作っていく、築いていく力が、自分ではちょっと分からないかも知れませんが、よりしっかりあなたは身につけていると思います。

ですので、高校へ進学という市内の友達だけじゃなくて、市外で出会う初めての友達もいっぱいいる新しい世界に入っても、すぐにその力が発揮されて、新しい出会いの中で友達は必ずでき

ると思いますので、どうか安心してください。

こうしたことに加えて、先ほど紹介されましたヒューマンライツの交流のような場で、違う学校同士の交流を行った生徒たちは、高校生活という新しいスタートを切る上では、さらに友達と交流する力、人と関わる力、ちょっと声をかけたり頼み事をしたりとか、そんな力が身につけていると思います。

ですので、例えばですけれども、亀山中学校の子どもたちの中でも、先日岡山県の高梁市にある高梁中学校との交流を行いました。また全体的に見ると、例えば科学の祭典、こういったものが秋に実施されます。ヒューマンフェスタというのもあります。そういった他の中学校の生徒同士が交流をしながらイベントを盛り上げる取組が亀山市内にもたくさんあります。

これらの例を参考に、議員のお考えを自分の学校、関中学校でも意見を出して、みんなで話し合い、生徒会が中心となって、例えば他の学校、他の中学校や、他の市外の中学校なんかとも交流する機会を作ったらどうかとか、そういった企画や計画をしてみるのも大変意義のあることかなというふうに考えます。

○田中 綾議長

青山議員。

○青山奏音議員

新しい交流の機会などが作られることをお願いし、これで私の質問を終わります。

○田中 綾議長

2番 青山奏音議員の質問は終わりました。

次に、6番 森 瑛都議員。

○森 瑛都議員

亀山中学校の森 瑛都です。質問を始めたいと思います。

まず質問のテーマは、医療費を高校18歳まで無償化にすることです。

今の亀山市では、中学校卒業の15歳まで医療費無償化が行われています。15歳から働き始める人が少ない傾向にあります。自分で医療費を払える大人になる年齢までは無償で医療が受けられる制度が必要だと思います。

お手元に資料があると思います。このグラフを見てください。

例を挙げると、すでに29市町の中、過半数の16市町で無償化が行われています。

市の中では志摩市、桑名市、四日市市、熊野市、いなべ市、松阪市、鈴鹿市、尾鷲市などの亀山市の周りでも無償化が次第に増えています。

質問をしたいと思います。このような他市の無償化についてどのようにお考えでしょうか。

○田中 綾議長

6番 森 瑛都議員の質問に対する答弁を求めます。

小林市民文化部長。

○小林恵太市民文化部長

少し難しいテーマでございますが、本当によく調べていただいて、大事な制度ですので、ご質問いただきましてありがとうございます。森議員の質問にお答えをさせていただきます。

子どもの医療費の無償化につきましては、今から16年前の平成21年当時、三重県内のほと

んどの市や町では小学校入学までの子どもを対象としていた時代でした。

その中で、亀山市は三重県内で初めて中学校卒業までの子どもまで無償化の対象を広げて、どの市や町より早く、子育てにかかる医療費の負担を少しでも軽くして、安心して子育てができるよう、その環境づくりに取り組んできています。

一方で、森議員のご質問にありますとおり、現在においては、三重県内の29の市や町のうち、16の市や町で、それから作っていただいた資料にもありますとおり、来月の9月からはさらに7つの市や町で高校生年代までを対象に、医療費の無償化が行われようとしています。

確かに、中学校を卒業してから未成年の間は収入を得る人は少なく、高校生の年代まで医療費の無償化をすれば、子どものいるたくさんのご家庭の医療費にかかる負担を今よりもより軽くすることができます。

しかしながら、それぞれの市や町によって子どもの人数や、かかる医療費の金額には違いがあります。また、子育てに対する支援の方法でありますとか考え方にも違いがあります。

そういった違いから、医療費の無償化を高校生年代まで広げている市や町があるものというふうに考えています。

○田中 綾議長

森議員。

○森 瑛都議員

この無償化は、中学生の視点からではなく、保護者の方の財政的な負担軽減にもなります。

ですが亀山市の財政の負担はかなり大きくなると考えます。

質問したいと思います。もしこの無償化が取り入れられた場合、財政の負担についてどのようにお考えでしょうか。

○田中 綾議長

小林部長。

○小林恵太市民文化部長

令和6年度の1年間で中学生の皆さん、大体1,350人ぐらいおみえになったんですが、皆さんが病院とか、歯医者さんとか、それから薬局とかを受診した医療費を無償化をするために、亀山市が負担をしたお金は3,970万円でした。

これを参考にしまして、亀山市も医療費無償化の対象を高校生年代まで広げようとしてみると、毎年、よく似た金額となりますが、約4,000万円ぐらいのお金が新たに必要になります。

これは亀山市の財政にとっては大きな負担となりますので、慎重に考えていく必要があるというふうに思っています。

○田中 綾議長

森議員。

○森 瑛都議員

この無償化が取り入れられた場合、子どもにやさしい市町としての評価は上がり、結果的に若者の増加が望めると思います。怪我をした場合、病気をした場合、どんなときでも安心して医療を受けられるようにしませんか。

最後に質問したいと思います。市長にお聞きします。今回私が提案した無償化についての考え

方を教えてください。

○田中 綾議長

櫻井市長。

○櫻井義之市長

今日ご質問いただいた子どもの医療費の助成を含めて、実は三重県には、3つの視点で、すばらしいこの医療費の助成制度があります。これは非常にありがたいことであります。

子ども医療費の助成、それからもう1つは、障がい者の皆さんの助成制度、それからもう1つはひとり親家庭等の助成、18歳までのひとり親の家庭に対しては医療費の無償化が、実はそういう制度でいわゆるサポートされておるとというのが、実は三重県のこの福祉医療の制度であります。

亀山市もそれに協力をしながら、連動しながらそこを運用してきたということでもあります。

この子ども医療費助成は、これやはり子育てしやすい社会の実現に向けた子育て世帯を支える制度ですが、子どもたちがどこの市や町に生まれ育っていても必要な医療サービスを公平に受けることが大切だというふうに思っております。

全国的に同じ制度になるように、亀山市は以前から国や県にお願いを続けてきております。都道府県によって違いが出ないように、あるいは県内でも市町によってその違いが出ないようにというふうに、そこを本当に考えていくと、行政・政治がそのように申し上げてきました。

一方で、子育て世帯を応援するためには、医療費の無償化以外の取組も大切だと考えています。例えば、放課後や夏休み等の長い学校の休みのときには、放課後児童クラブや子どもの居場所を設置して、子どもたちが安心して過ごせるようサポートをしています。

また、子どもが生まれる前から、子育てや子どもに関するあらゆる悩み事や困りごとを保健師さんや助産師さんなど、専門のスタッフが丁寧に相談に乗ったり、必要な支援につなげたりをしてきています。

それから、現在亀山市は市外へ転出される人数より市内に転入する人数の方が多くて、人口が増える率、社会増減率ってこう言いますが、これは県内トップクラスであります。

これは、歴史とか自然が豊か、そして住む人が大変やさしいということとといった亀山市の魅力に加えて、教育とか文化やスポーツ、福祉や医療、そして子ども医療費の無償化の制度だけではなく、子育てを応援する様々な取組のほか、市民の皆さんの協力によって住みやすいまちとしての評価をいただいているものと考えています。

森議員が提案をしてもらったように、子どもにやさしい亀山市としてさらに評価が上がるように、若者が増えて、ずっとこのまちで住んでもらえるように、そして皆さんが将来安心して子育てができるまちとなるように、今後もさらにご提案を含めて、さらに様々な取組を着実に進めていきたいと考えているところであります。

○田中 綾議長

森議員。

○森 瑛都議員

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○田中 綾議長

6番 森 瑛都議員の質問は終わりました。

次に、12番 新開ほのか議員。

○新開ほのか議員

亀山中学校の新開ほのかです。

私は商店街に人を呼ぶことをテーマに質問をさせていただきます。

現在の商店街は暗く古くて活気がありません。東町商店街を栄えさせるために、中高生を含む広い世代に人気のある店を作り、若い人を中心に人を呼べるようにしたいと思っています。

それと同時に、人が多くなることで、車で来たり自転車であたりする人も増えると思うので、それぞれの店舗に駐車場を作るのではなく、大きな駐車場を共有で持つことで、お年寄りでも駐車しやすくなるのではないかと思います。

駐車場を1つにすることで目的の店舗までの道のりの中で、目的以外の店にも立ち寄りきっかけになると考えます。

質問です。この駐車場を大きくすることについてどのようにお考えですか。

○田中 綾議長

12番 新開ほのか議員の質問に対する答弁を求めます。

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

東町商店街では、昭和49年にできた東町商店街振興組合が、サマーセールや年末セールを実施したり、アーケードや街路灯を共同で管理したりしてきました。

また、100年以上続く伝統行事である亀山大市が開かれるなど、市の商業と同時に、にぎわいの中心的な役割を果たしてきました。

現在、東町商店街には35の店があり、駐車場は店ごとに用意されています。

そのような中、議員ご指摘のとおり商店街でみんなが使える大きな駐車場があれば、他の店にも行きやすくなり、お客さんにとっても便利になるので、商店街がにぎわうためには、とてもいいアイデアであると思います。

しかし、大きな駐車場を作るためには、場所の問題や、その費用をどうするかなど、解決しなくてはならない課題があります。

そのため今後、この意見を東町商店街振興組合に伝えるとともに、市も一緒に東町商店街を含めた、このエリアのまちづくりについて考えていきたいと思っています。

○田中 綾議長

新開議員。

○新開ほのか議員

大きくすることで、お年寄りに優しく車社会に適した場所になると思います。

質問です。現在の商店街について課題は何だと思っていますか。また、これからの東町商店街のありたい姿はどのようなものですか。

○田中 綾議長

富田部長。

○富田真左哉産業環境部長

東町商店街は、これまで市民に親しまれ、買い物だけでなく、人と人をつなぐ交流の場としても大事な役割を果たしてきました。

しかし、最近は大きな店やコンビニ、ネット通販の利用が増えたりしたことで、東町商店街を活用する人が減ってきています。

商店街の課題としては、アーケードや建物が古くなってきていることや、営業していない店が増えたり、店を続ける人がいなくなったりすること、大きな駐車場がないことです。

これからは、大きな店やネット通販にはできないような商店街の特別なサービスなどを考え、訪れた人にとって、いつも新しい出会いや発見を楽しめる商店街、地域住民にとっては、買い物をするだけでなく、地域の人と交流できる商店街が、これからの商店街がありがたい姿と考えています。

○田中 綾議長

新開議員。

○新開ほのか議員

私の理想は、何か目的のものを買うためだけに訪れるのではなく、ふらふらと散歩気分で誰かと話すため、暇を潰すため、ただ何となく訪れるような商店街です。

このような商店街にすることで、気軽に立ち寄ることができ、たくさんの人の集いの場として発展すると考えます。広い世代の人が集まり、にぎやかで活気のある理想の商店街を目指すことができると思います。

質問です。現在の商店街の発展のために行っている政策は何ですか。

○田中 綾議長

富田部長。

○富田真左哉産業環境部長

東町商店街の発展のため市が行っている取組は、主に3つあります。

1つ目は商店街を支えるために補助金を出していることです。例えば、東町商店街振興組合が管理するアーケードの電気代や亀山大市などのイベントに対して補助金を出しています。

また、「空き店舗等活用支援事業補助金」として空いている店を使って新しく飲食店などにするために改装工事費などを補助する制度もあります。こうして商店街や亀山駅前、関宿などがもっとにぎわうようにしています。

2つ目は東町商店街の空いている店を使ってアートを楽しめる場所にするということです。

昨年度開催された亀山トリエンナーレでは、市民活動団体や商店街の方々、多くのアーティストが協力して、空いている店に作品や映像、多くの人に本物の文化を鑑賞していただきました。

このような取組を支援することで、商店街ににぎわいと活気が生まれ、まちの魅力が向上することを目指しています。

3つ目は商店街に市民活動の拠点である「みらい」を作ったことです。「みらい」では年間約2万人の市民が自主的に様々な市民活動を行っています。

また4月からは「ぷらっと」という新しい場所を作り、市民の皆さんがぷらっと立ち寄りボランティア活動について相談できるようになりました。

人と人の繋がりや交流、助け合いや支え合いなど、市民や地域のきずなを強めることも大切に

しており、市はこれら3つの取組で東町商店街が発展していけるよう支援しています。

○田中 綾議長

新開議員。

○新開ほのか議員

私はイベントの面では、キッチンカーを集めたフリー広場や子どもに東町商店街の仕事を体験するイベントなどを開くのがいいと思います。他県では、実際に子どもが様々な職業を体験し、商店街に興味を持ってもらい、子どもや若い人を中心に広い年代を呼ぶことができたという事例もありました。

お店の面では、子育て世代には子どもを遊ばせながら食事ができるところ、お年寄りにはゆっくりわいわいと話ができる場所などがあつたらいいかなと思います。全体的にはフードコートのような空間や休憩場所のような場所があつたらいいと思います。

亀山中学校の3年生にアンケートをした結果、喫茶店やカフェを含む休憩場所や勉強場所が欲しいという意見は149人中56人集まりました。

亀山中学校の生徒は定期テストの期間になると、多くの人が図書館へ行きます。駅前に新しく図書館ができましたが、人が多く、場所の予約が取れなくなることもあると聞いたので、商店街の中にもこのような空間をつくれたらいいと思います。

最後の質問です。この休憩場所の空間を自分たちの手でリノベーションするのはどうでしょうか。

○田中 綾議長

富田部長。

○富田真左哉産業環境部長

JR亀山駅前の図書館は、試験前などは利用者が多く予約が取れない状況があります。

そこで空き店舗を活用し、休憩場所や勉強場所にするのは良いアイデアであると思います。

実際に他の市で大学生が中心となって1週間だけ商店街の空き店舗を活用した無料学習室を試してみたという例もあります。

亀山市では空き店舗を使った新しい店を応援するために、「亀山市空き店舗等活用支援事業補助金」という制度があり、市から補助金を出して応援しています。

しかしこの補助金はお店を営業することが条件なので、中学生の休憩場所や勉強場所として活用する場合は、建物をどのように管理するのかといったことや、家賃や光熱水費等を誰が払うのかといったお金の問題を解決しなくてははいけません。

今回いただいたご意見につきましては、他の市の例も参考にしながら、東町商店街振興組合とも協力して研究していきたいと考えています。

○田中 綾議長

新開議員。

○新開ほのか議員

自分たちで作ることは、大切に使ってもらい関心を持ってもらうことに繋がるのではないかと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○田中 綾議長

12番 新開ほか議員の質問は終わりました。

次に、11番 風口流輝議員。

○風口流輝議員

亀山中学校の風口流輝です。

東町商店街について質問します。

現在、東町商店街の古びたシャッターが暗い印象を与えています。

質問します。市として東町商店街はどう見えていますか。

○田中 綾議長

11番 風口流輝議員の質問に対する答弁を求めます。

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

アーケードのある東町商店街は昔は丘の上の白いまちと呼ばれていて、買い物をするだけでなく、市民の交流の場や憩いの場でもありました。

現在、東町商店街には35のお店がありますが、東町商店街ができた昭和49年の80店舗と比較すると、お店の数が大幅に減り、寂しい思いがします。

しかし最近では商店や飲食店だけでなく、新たに訪問看護や学習塾、ネイルサロンなどいろいろな種類のお店ができ、にぎやかになってきています。

また、亀山大市や亀山トリエンナーレなどのイベント会場として活用され、多くの人が訪れる場所でもありますので、亀山市にとっては大切な場所であると言えます。

○田中 綾議長

風口議員。

○風口流輝議員

今の現状を見て、暗い印象を与えているシャッターをどう明るくするかという課題があります。

質問します。その課題を解決するために、まちの建物の色を塗り直したり、建物のさびや汚れを落としてきれいにする必要があります。また、まちのシャッターに絵を描いたりするのはどうでしょうか。

○田中 綾議長

富田部長。

○富田真左哉産業環境部長

現在、東町商店街の多くのお店は住宅と一緒にっており、シャッターが閉まっても人が住んでみえます。

そのような中で、シャッターアートについては、これまでも何度か東町商店街でも、検討されていますが実現していません。

その理由としては、絵を描いたり、飽きられないように新しく絵を描き直したりするにはお金が必要なことや、一時的に人を集めるだけになってしまうのではないかという心配もあり、商店街の皆さんの意見を1つにまとめられなかったそうです。

しかし、商店街の皆さんはお店の数が減っていく中で、商店街の方々や市内の芸術家が中心と

なり、東町商店街を亀山トリエンナーレなど芸術イベントの会場としても活用し、商店街を盛り上げてきました。

例えば、トリエンナーレの参加アーティストと中学生の皆さんが商店街の方と一緒にシャッターアートのデザインを考え、作品をつくれば、もっと地域への愛着が生まれるかもしれません。

また、でき上がったものをSNS等で発信し、注目を集めればもっとたくさんの人が商店街に来てくれて、商店街がにぎやかになる可能性もあります。

しかし、実際にシャッターアートを行うためには、住んでみえる方の承諾やお金の問題などを解決する必要があるので、まずは商店街の方々と亀山トリエンナーレの関係者の方々と一緒に相談していきたいと考えています。

○田中 綾議長

風口議員。

○風口流輝議員

これで私からの質問を終わります。

ありがとうございました。

○田中 綾議長

11番 風口流輝議員の質問は終わりました。

次に、5番 松田千賢議員。

○松田千賢議員

亀山中学校の松田千賢です。私は中高生の遊び場について質問します。

中学生議会についての説明会で、中高生の遊ぶ場所の確保をしてほしいとの意見が多くありました。亀山中学校では681件の意見のうち約2割、140件が中高生の遊ぶ場所についての意見でした。亀山中学校の3年生に亀山市内に中高生向けの遊ぶ場所が欲しいかというアンケートを取った結果、欲しいという意見が86%ありました。

遊び場といえば、亀山公園の遊具を新しくしていただいて、小学生や小さなお子さんたちは喜んでくれている様子がかがえました。しかし、遊具には年齢制限があり、小さな子ども向けのものばかりで中高生は使わないのが現状です。

市長にお伺いします。先ほどの中高生が遊ぶ場所を求めている意見が多いこと、また実際に中高生が遊ぶ場所がないことについてどのようにお考えですか。

○田中 綾議長

5番 松田千賢議員の質問に対する答弁を求めます。

櫻井市長。

○櫻井義之市長

先ほども山尾議員のご質問でお答えをさせていただいたんですが、これまですアンケート調査をしていただいたこと本当に感謝申し上げたいと思います。その上で率直な中学生の皆さんの意見を改めて認識をさせていただきました。

中高生の皆さんが遊ぶ場所として、現在市内には松田議員が希望されるような、複合レジャー施設はありません。残念ながらありませんが、今回中学校で実施をいただいたアンケートの結果をしっかりと受けとめて、中高生の皆さんにも楽しんでいただけるようなアミューズメント施設

やお店などが市内に建設されるように力を入れていきたいと思ひます。

先ほども答弁させていただいたと思ひますけれど、やはりまちが活気を持っていく人口が増えていたり、あるいは若い皆さんがここで暮らしていくと、そういう力でもって、やはりこのまちに新しい魅力を生み出していくことができればすばらしいと思ひますので、是非ともそこは努力をしていきたいと思ひます。

その一方で、亀山市は自然豊かでありまして、亀山公園やサンシャインパークなど、極めて豊かな自然の中で、それに居心地のいい場所がたくさんあります。

私、中学生時代の石水溪の話をさせていただきましたが、時代は違ふとは申せ、やはりこの豊かな自然の中で体験をしながら、あるいは友情を深めていたりとか、新たな何か遊びとかフィールドを生かした楽しみを見つけていくということは、大変素晴らしいことだと思ひているところではありますが、市内には屋外で遊ぶ場所はたくさんありますので、何とかそれをぜひ活用いただけたらなというふうに願ひます。

実は亀山市は1人当たりの都市公園の面積が県内第3位ということでありまして。

そのような声もたくさんありますので、友達と一緒に過ごしたり遊んだりする場として、ぜひとも活用いただければと思ひます。

○田中 綾議長

松田議員。

○松田千賢議員

今の中高生の遊ぶ場所はカラオケやゲームセンター、映画館などがあるショッピングモールやラウンドワンです。

鈴鹿市や四日市市にはショッピングモールなどがありますが、送迎してもらっていくなど、交通手段があまりないこと、遊ぶ場所が遠いことなどが課題です。

提案としては亀山市内にショッピングモールなどを誘致する思ひはありませんか。

○田中 綾議長

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

亀山市には地域密着型のショッピングセンターエコーがありますが、複合的な商業施設であるイオンモール鈴鹿のようなショッピングモールはありません。

また、ボウリング場や映画館といった屋内型複合レジャー施設もありません。また、そういった施設は中高生だけでなく、20代から30代の若い人たちも望んでいることは分かっています。

しかし、ショッピングモールや屋内型複合レジャー施設を建てるのは、民間の会社なので、利益が出るかどうかを十分考えた上で作られます。

これからどこの市や町でも人口が減少する中、お客さんを集めるのは非常に難しい問題だと思ひます。市では商業施設やレジャー施設などに来てもらえるよう取り組む一方で、近くの屋内型複合レジャー施設へ行きやすくするための交通手段などを考えていきたいと思ひます。

また、将来辺法寺町の亀山ジャンクションから鈴鹿市まで繋がる鈴鹿亀山道路の完成や、リニア中央新幹線の三重県駅ができることで、まちが成長し、発展し、中学生の皆さんが求めている場所ができるかもしれません。そのようになるようこれからも魅力あるまちづくりを進めていき

たいと考えています。

○田中 綾議長

松田議員。

○松田千賢議員

誘致するのが難しい場合、鈴鹿市や四日市市、津市などに人口が流れ、亀山市のにぎわいが減ってしまうと考えました。

亀山市の人口を増やし、にぎやかにするために市民が喜ぶものを誘致することが望ましいと思います。この考えに対してどのような考えですか。

○田中 綾議長

富田産業環境部長。

○富田真左哉産業環境部長

全国的に人口減少が進む中、三重県が令和7年3月に発表しました統計で見る三重の姿によりますと、亀山市は転入する人、引っ越してくる人が、転出する人、引っ越していく人を上回っています。その割合を表す社会増減率は県内1位で平成28年度以降、転入の人口の方が多い状況となっています。この社会増減率が県内1位になった理由としては、これまでからずっと人口減少に対する対策を行ってきた結果であると思っています。

例えば、子育てしやすい環境や高齢者になるまで住みやすい環境を整えたり、多くの会社に亀山市へ来ていただくことで、働く場所を作ったりするなど、亀山市の魅力をPRしながら他の市からの移住定住につなげてきました。

亀山市のにぎわいづくりには、議員がご指摘されるようなショッピングモールや屋内型複合レジャー施設が必要でないとは言いませんが、施設がないことで人口が減少していくわけではありません。

亀山市は、自然や歴史文化資源が豊かであること、水がおいしいこと、日々の生活に必要な食料品や日用品を購入しやすいこと、鉄道や交通アクセスがよいことなど魅力もたくさんあることから、市外から亀山市に来ていただく方も大勢みえます。

今後もさらに亀山市の魅力を掘り起こし、様々な形で積極的に情報発信することで、たくさんの方が訪れたり住んだりしてくれるように、亀山市のにぎわいにつなげていきたいと考えています。

○田中 綾議長

松田議員。

○松田千賢議員

以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○田中 綾議長

5番 松田千賢議員の質問は終わりました。

次に、4番 安藤将希議員。

○安藤将希議員

亀山中学校の安藤将希です。今回私が担当したのは、亀山の公式YouTubeについてです。亀山にはこの公式YouTubeがあり、現在のチャンネル登録者数は770人とまだまだ

多くなく、動画の再生回数も、多いものと少ないもので大きな偏りができています。数万回再生を行っているものもあれば数十回再生や数百回再生などのものが多く、あまり伸びているとも言えません。

それでは質問します。

先ほど説明したように亀山には公式Y o u T u b eがありますが、それはどのような目的で作られたものですか。作った上で今の現状を把握しているのでしょうか。

○田中 綾議長

4番 安藤将希議員の質問に対する答弁を求めます。

笠井政策部長。

○笠井武洋政策部長

Y o u T u b eは映像を使って視聴者に情報を伝えることができる動画共有サービスですので、亀山市も平成27年に公式チャンネルを開設し、市の取組や、観光情報などを分かりやすくお伝えするために活用しているところです。投稿する動画は、様々な部署で作成しておりますので、その内容が観光であったり、歴史文化、産業、環境、健康福祉など多岐にわたっております。

それぞれの動画の再生回数やチャンネル登録者数等は定期的に確認をしておりますが、これまでに108本の動画を投稿し、先週末時点のチャンネル登録者数は約790人となっております。

このうち再生回数が最も多い動画は消防本部救助隊の自主制作PR動画で約3万2500回視聴されています。その次に多いのは、亀山ブランドの認定品にもなっている関の桶の紹介動画でありますとか、本市出身の世界的な登山家尾崎隆さんの紹介動画となっております。

今後も様々な動画を投稿し、市の行政情報等を発信していくこととしております。

○田中 綾議長

安藤議員。

○安藤将希議員

把握できているということはすでに改善策などこれからのことはしっかり対策できているのでしょうか。これらの再生回数、動画再生の回数を安定させる方法やチャンネル登録者を多くするための対策などはできているのでしょうか。把握していてもそれができていなかったら把握している意味はないと思います。把握していても改善点がなければ把握してる意味はないし、把握できていたらもうちょっと早く対処できると思います。

実際にその把握している上での対策案などあるのでしょうか。

○田中 綾議長

笠井部長。

○笠井武洋政策部長

本市では市公式Y o u T u b eへ投稿した動画を市のホームページに載せているほか、広報かめやまの記事や市公式L I N Eメッセージなどで動画を案内するなど、多くの方に動画を見ていただけるよう工夫をしております。

市が発信する主な情報は行政情報ですので、市民の皆さんの生活を支えるためのものですので、利益を求める民間会社や個人が発信する情報とは異なります。そのため、市公式Y o u T u b eを運営する上で、再生回数の安定化や、チャンネル登録者数の増加などを重要な目的とはしてい

ませんので、今のところ具体的な対策は行っておりません。

しかしながら、市の情報に触れていただくために、多くの方々に動画を見ていただきたいと考えておりますので、行政情報番組で放送した番組や自主制作動画の投稿を増やすなど、今後も様々な動画を投稿し、魅力あるチャンネルとして充実をさせていきたいと考えています。

○田中 綾議長

安藤議員。

○安藤将希議員

先ほどの具体例で把握できているが、あまり対策案がないということが分かりました。

対策などで挙げられるものは、動画編集などサムネイルを面白くするといった分かりやすいものから、動画編集を依頼するという方法もあります。企画案も、様々な動画配信者を見て参考にすればいいと思います。有名Y o u T u b e rの動画を見たり、最近急上昇してるY o u T u b e rなどいろいろな人がいます。

有名な配信者がたくさんいるので亀山市もパロディー動画というものを作ってみるのはいかがでしょうか。

質問があります。このY o u T u b eチャンネルでは広告収入が出ているのでしょうか。

○田中 綾議長

笠井部長。

○笠井武洋政策部長

議員からご紹介いただきましたように、Y o u T u b eには動画を配信する人が広告収入や、あるいは視聴者から支援が受けられる仕組みというのがあります。

このうち広告の収益化を行うためには、チャンネル登録者数が1,000人以上で、過去1年間の総再生時間が4,000時間以上などの条件を満たしている必要がありますが、現在亀山市はその条件を満たしていませんので、収益化はできていない状況にあります。

また、チャンネル登録者数が500人以上で、過去1年間の総再生時間が、3,000時間以上などの条件を満たせば、視聴者が月額料金を払ってチャンネルメンバーとなって特典を受けられるチャンネルメンバーシップ制度が利用できますが、現在その条件を満たしていない状況です。こうした状況ではありますが、投稿した動画の中には、市の観光や産業など、再生回数を伸ばして高いPR効果が期待できるものもありますので、広告の収益化といったこれまでにない視点での議員からのご提案かと存じますので、今後研究していきたいと考えています。

○田中 綾議長

安藤議員。

○安藤将希議員

ありがとうございます。もし広告収入を得ていないのであれば、運営していく上での資金を稼ぐことができないし、宣伝していてもあんまり意味がないものだと思います。この先運営していくのは、収益がない上では難しいのではないのでしょうか。

質問します。運営していく上での費用はどこから出ているのでしょうか。

○田中 綾議長

笠井部長。

○笠井武洋政策部長

先ほどもご答弁申し上げましたが、市の公式Y o u T u b eの広告収入が亀山市にはありませんので、運営資金はすべて市の予算で賄っている状況でございます。

○田中 綾議長

安藤議員。

○安藤将希議員

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○田中 綾議長

4番 安藤将希議員の質問は終わりました。

これにて、日程第4に掲げた市政に関する一般質問を終結します。

次に、お諮りします。

以上で令和7年度亀山市中學生議会の議事を全て終了しました。

議事を閉じ、閉会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

従って、令和7年度亀山市中學生議会はこれをもって閉会します。

午後0時09分 閉会

令和7年8月26日

議長 田中綾

1番 永野瑛大

4番 安藤将希

8番 山崎莉子

●参考資料

13番 櫻井泰基議員の質問に対する、答弁の内容について

「亀山の祭りについて」

1. 亀山市で行われている大きな祭りはいくつあるか

また、参加者が満足するためにどのような工夫や努力をしているか

亀山市で行われている主な大きな祭りには、関宿祇園夏まつり、亀山市納涼大会、亀山市関宿納涼花火大会及び東海道関宿街道まつりの4つがあります。

参加者が満足するための工夫についてですが、亀山市納涼大会では、市民が参加する灯おどりのほか、各中学校での竹あかりワークショップで作成した竹灯籠を含めた竹あかりの展示など、「灯」をテーマにした市民参加型の祭りとなっております。また、事前に、踊りを覚えていただくよう灯おどり練習会の開催や、当日は、和太鼓や三味線の生演奏など、参加する皆さんに楽しんでいただけるよう、工夫しています。

東海道関宿街道まつりでは、時代行列を行っており、関宿に関わりのある歴史上の人物の役に仮装する方を募集する参加型のイベントとしています。地域の小学生を対象にした時代行列も行っており、学校の先生と一緒に仮装して参加できるなど、楽しい思い出になるような工夫をしています。さらに、関の山車や馬子唄など関宿に関わりのあるものが宿場行列にも参加し、見どころいっぱいの祭りとなっております。

このように、見る人も参加する人も楽しんでもらえる祭りなので、ぜひ亀山市の祭りにご参加ください。

2. 関中学校区（関宿祇園まつりや街道まつり、関宿納涼花火大会など）と、亀山・中部中学校区（大市や納涼大会）で回数が違うことについて

先ほど紹介しました4つの大きな祭りは、それぞれ歴史があります。亀山市納涼大会は、市民参加型の祭りとして100年以上続いている祭りです。また、東海道関宿街道まつりは、昭和59年に関宿が国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれたことをきっかけに、関宿のまちなみをみんなに知ってもらい、このまちなみ保存と関宿のにぎわいを目的に、昭和61年から始まった祭りです。

大きな祭りは、中学校区で見れば偏りがあるかもしれませんが、こうした祭りには、それぞれ歴史や文化、伝統があり、今後もそれらを続けていくことが大切だと考えています。

大きな祭りではありませんが、市内の各自治会やまちづくり協議会などが中心となり、市民のみなさんが楽しめる地域の祭りやイベントが開催されています。こうした地域での祭りやイベントは、地域の人たちが仲良くなったりつながり合ったりするために大切な行事だと考えています。ぜひ、中学生の皆さんもこうした地域での祭りやイベントに参加し、地域の方々との交流を深めてください。

3. アムール・デュ・ショコラやポケモンイベントのように、人が来すぎて行列ができ、会場整理が必要になるくらいみんなに喜ばれるような、1つのテーマに特化した祭りを開催することができ

るか

亀山市では、亀山茶のほか、和菓子や洋菓子など38品目の特産品を「亀山ブランド」として認めています。これらのブランド品は、お店と市が一体となって、より多くの人に知ってもらうために、百貨店や大阪・関西万博などでPR販売しています。また、昨年度、亀山中学校の生徒のみなさんもお話を聞いた、文化大使のパティシエ青木定治さんは、毎年亀山茶を使用したスイーツを作られ、アムール・デュ・ショコラに出展し、亀山市のイメージアップに協力していただいています。

また、毎年「亀山青空お茶まつり」を実施し、亀山茶を多くの人に身近に感じていただくために、茶葉の天ぷらやお茶せんべいなどをふるまっています。

議員ご提案の「和菓子や洋菓子をたくさん食べられる祭り」は、市内のお店を一度に紹介できますし、様々なスイーツを楽しめるワクワクするような楽しいイベントであり、とても良いアイデアだと思います。

今後は、近くの市でも行われた「スイーツフェスタ」などの例も参考にしながら、亀山ブランド認定品を含めた地元のスイーツをPRできる楽しいイベントを研究していきたいと思えます。